

# 2020 年度 活動報告書



NPO 法人こだいら自由遊びの会

# 新型コロナとプレーパーク

2020年は、春休み前から自粛期間が始まり、公共施設使用に制限が出たため、4月5月のプレーパークは中止せざるを得なかった。解禁後の6月は2回開催した。そのころは未だ各地で制限もあって、子どもたちの遊びにも制約があったため、コロナ以前より多くの参加者があった。日本中が見えない脅威に怯え、家の中で息をひそめる日が続いていたので、ストレスもマックスになっていた。ハンモックなどの「密」になりそうな遊びは止めにして、検温、消毒などに気を付けながらも、気持ちのいい林の中での遊びは、みんなが求めていることだった。7月のキャンプでは、スタッフは当日までの1週間、検温をして健康に留意しながら準備をしていたが、悪天候のために中止になった。8月は例年5日間連続開催していた「森で遊ぼう」は、夏休みの短縮という事情のため、15、16、22日の開催になった。毎年来ていただいているプレーリーダーの”かまやん”に今年も来ていただいて、いつもよりも大胆な遊びにもチャレンジした。開催できた時は林でも、きつねっばらでも前年度までの2倍近い参加者あって、多くの家族や子どもたちに楽しんでもらえた。閉塞感のある毎日を送らざるを得ない日常は子どもにもダメージを与える。また人との距離を取る中で、コミュニケーションを阻害されて、知らず知らずのうちに心の成長にもネガティブな影響を与えてしまうことを過小評価せず、大人は子どもが育つ環境をこれまで以上に考えていくべきだと実感した。

## 中央公園雑木林の様子



手作りの大きなブランコは大人気



巨大シャボン玉に挑戦



穴掘りとトンネルづくりに熱中



小さな子どもたちたらいで水遊び



工夫次第でいろんな形に



はじめて使うのこぎりやトンカチ、使ってみなくちゃわからないよね

**子どもキャンプ場・きつねっばらでの様子**



好きなものを焼く！  
冬のキャンプ場ならではの



梶さんのワークショップ



即席のツリーハウス



なんでも遊び道具になっちゃう



きつねっばらでもやっぱり穴掘り♪

# NPO 発足 10 周年記念事業

2011 年に発足した NPO 法人こだいら自由遊びの会の 10 周年に当たる年だったこともあり、より多くの人に冒険遊び場の魅力や大切さを知ってもらうことが出来るよう、冒険遊び場の活動に携わってこられた方々のお話を聞く会を積極的に開催した。

## 第 1 弾

9 月 12 日：奥富裕司さん（プレーリーダー・ユウジ）

林のプレーパーク開催時に認定 NPO 法人「冒険遊び場の会」で活動しているユウジさんにプレーリーダーとして来ていただき、林の中で遊びの大切さについてお話していただいた。

ご自身も不登校などを経験されていて、子どもに寄り添える方だからこそ子どもからの人気も高い。国分寺プレイステーションとはこれからも交流していけるといいなと思っている。

### 講師紹介



#### 奥富裕司(ユウジ)さん

プレーリーダーとしてのキャリアは国分寺市プレイステーションの唯一の常勤職員として 9 年目。その他、埼玉の朝霞の森プレイパーク、小平のディスカバーテラスなど、複数の遊び場作りに参画している。  
また、大学などのゲスト講師の経験多数。  
元不登校、引きこもり



## 第 2 弾

11 月 7 日：天野秀昭さん（プレーリーダー・アマノン）

「遊びを脳科学する・生きる力はどう育まれるか」

天野さんは 40 数年前に世田谷でプレーパークが始まったとき以来、ずっと全国のプレーパークに関わっているプレーリーダーの元祖である。子どもが成長したいと体で発しているエネルギーを閉じ込めないように、受け止めてあげる遊び場が大切なことを、沢山の事例とともにお話してくれた。脳の発達段階にある子どもにとって、感覚的な刺激はとても大切だ。室内の遊び~~だけ~~では子どもの脳は育ちを止めてしまう。遊びで脳を刺激しよう。



天野秀昭さん

1958 年、東京都葛飾区生まれ。20 歳のころ、自閉症児との出会いから「遊びの世界」の奥深さを実感。1979 年に開設された日本初の民官協働による冒険遊び場「羽根木プレーパーク」で初代の有給プレーリーダーを務め、その後、区内の 3 プレーパーク（世田谷・駒沢・烏山）開設を地域住民と行う。子どもが遊ぶことの価値を社会的に高め、普及し、実践するために 4 つの法人を立ち上げ、現在は全国での活動支援に携わっている。NPO 法人「園庭・園外での野育を推進する会」理事長、NPO 法人「プレーパークせたがや」／「フリースペースたまりば」理事、一般社団法人「日本プレイワーク協会」理事、NPO 法人「日本冒険遊び場づくり協会」評議員、日本ユニセフ協会 CFCI（こどもにやさしいまち）委員。

NPO 法人こだいら自由遊びの会 10 周年記念講演会

# 「遊び」を脳科学する

～生きる力はどう育まれるか～

講師：天野秀昭氏

日時：11月7日(土)  
10:00～11:50  
(開場 9:45)

場所：福祉会館小ホール

参加費：無料 定員 60 人

主催：特定非営利活動法人 こだいら自由遊びの会  
http://kodairaplaypark.com/  
問い合わせ：ryukorin088@softbank.ne.jp  
090-1771-7431(直)

※この会費は(株)フリスドッグの子供向け商品の収益金です。

日本冒険遊び場の会では、遊びを通じて子どもが「プレイパーク」を通じて育ち、生きる力を身につけていくことを目指しています。そのために、全国各地にプレイパークを開設し、子どもたちが自由に遊ぶことができる場所を提供しています。また、専門家は子どもたちの発達や行動がどうなるかを観察し、その結果に基づいて指導や支援を行っています。プレイパークは、子どもたちが自由に遊ぶだけでなく、大人がサポートする役割も果たしています。プレイパークは、子どもたちが自由に遊ぶだけでなく、大人がサポートする役割も果たしています。

当日は講演会を開催させていただきます。また、質疑応答の時間も設けます。お申し込みのうえ、当日は会場にお越しください。お申し込みのうえ、当日は会場にお越しください。

新しい時代に  
大人のできることを

## 第3弾

3月28日：齋藤啓子さん（武蔵野美術大学教授）、神林俊一さん（TOKYOPLAY 理事）

「子どもが子どもらしく過せる場所」みんなで創る子どもの居場所～地域の輪を広げる～

齋藤さんからは、1975年に世田谷区桜丘小の父母を中心に、夏休みの遊び場として始まった冒険遊び場・経堂のお話を聞かせていただいた。76年の夏にも開催し、77年、78年には千歳烏山で開催し世田谷プレーパークの基礎を作った。冒険遊び場の黎明期のエキサイティングで、貴重なお話を聞いた。

神林さん（かんぺー）からは、2011年に震災後の子どもたちの遊び場づくりのために宮城県気仙沼に行き、地元の人たちと交流しながら「あそびーばー」を作ったときのエピソードを聞いた。NPO 法人日本冒険遊び場づくり協会では、阪神淡路大震災のときに家族を亡くした子ども大勢いたが、子どものケアをするゆとりがなくて、後回しにされたことを知っていた。学校と校庭が避難所に使われてしまい、遊び場もなくなっていた体験から、早い段階で遊び場を作る必要性を感じて、すぐに神林さんが派遣された。遊びを通じて子どもが癒されていく過程を痛感。また、地域に遊び場を作ることが、地域の再生に役立ったことなどのお話を聞くことができた。

足立隆子（当会代表）も、こだいら自由遊びの会の10年間についてお話をした。プレーパークに来たことがない人もいたので、よい機会になった。

NPO法人こだいら自由遊びの会 10周年記念講演会 第2弾

# 子どもが子どもらしく 過せる場所

みんなで創る子どもの居場所～地域の輪を広げる～

講師：齋藤啓子氏（武蔵野美術大学教授）  
神林俊一氏（プレイワーカー）

日時：3月28日（日）13:30～16:00  
（開場 13:15）

場所：小川公民館ホール  
子ども連れの方のために、別室を用意しています。

参加費：無料 定員35人

主催：特定非営利活動法人 こだいら自由遊びの会  
<http://kodairaplaypark.com/>  
問い合わせ：ryukorin088@softbank.ne.jp  
090-1771-7431（足立）  
この企画は、(株)ブリヂストンのチロバラ舞臺の助成事業です。

当日は健康状態を  
確認させていただきます。  
マスク着用をお願いします。  
新型コロナウイルスの影響から会場人数の  
制限がありますが、やむを得ない  
場合は子ども連れOKです。

今年には東日本大震災から10年目に当たります。  
同時にNPO法人こだいら自由遊びの会も  
ちょうど10年の節目になります。  
毎年福島の子もたちとの交流も続けてきました。  
災害や新型コロナウイルスの流行などが毎年のように起こりますが、  
そんな中でも子どもたちは日常を生きています。  
遊びが子どもたちに与える影響は大きいです。  
辛いときほど遊びが心身を支えてくれます。  
プレーパークで大人も子どもも一緒に遊んで、  
閉塞感を打ち破りましょう！  
今回は約40年前に世田谷から始まったプレーパークを  
始めたころのお話を、齋藤啓子さんにお話いただきます。  
また神林俊一さんには、10年前から気仙沼の遊び場づくりを  
しながら、地域とどんなふうに関わって来たかを  
お話してもらいます。



# 地域交流事業

自由遊びの会主催の会以外に「地域交流事業」として、たかの台公園の計画に伴い、鷹の台周辺のまちづくりを住民の手で考え決めていく活動を行っている「鷹の台ひとえん会」の活動に参加して、子どもたちの遊び環境がより担保された公園になるよう提案を行うとともに、あるべき公園の姿をイメージしてもらいやすいように、講演会を開催するなど働きかけを行った。人宴会への参加は今後も継続して行っていく予定である。

10月4日

鷹の台ひとえん会主催で認定NPO法人「冒険遊び場の会」代表の武藤陽子さんから、国分寺の窪東公園や北町公園を市民参加で作ったときのいきさつについてお話を聞いた。ひとえん会の人にプレーパークについて知ってもらう機会になった。

1 of 1 台の新しい公園づくりをいっしょに考えてみませんか?

子ども時代の遊びは人の成長にも影響する大事な経験です。今は子どもが自由に遊べない環境の時代ですが、プレーパーク(1)では好きなだけダイナミックな遊びができます。それは普通の公園では禁止されてしまうような遊びもできるような、大人が関わっているからです。

武藤陽子さんは、国分寺市のプレイステーション(1)で長年子どもたちと関わってきました。外遊びがなかなかできずにお話したいだけでなく、国分寺市が公園を作る際に市民として企画に関わっていらした経験をお話いただきます。鷹の台のまちに新しくできる公園が、子どもや多世代の人々が集まる中心になると思います。

公園を拠点にした豊かなまちづくりを、いっしょに考えていきましょう。

(1)プレーパーク：プレーパークの活動は1940年頃に創始された。これは、地域の子どもたちが自由に遊ぶ場所を確保し、自由に遊ぶことを奨励する活動です。プレーパークは、子どもたちが自由に遊ぶ場所を確保し、自由に遊ぶことを奨励する活動です。

(2)国分寺市プレイステーション：誰でも利用できる総合的な公園施設。国分寺市が、(1)の活動を推進するために、プレイパークを拠点として、子どもたちが自由に遊ぶ場所を確保し、自由に遊ぶことを奨励する活動です。

講演 武藤陽子さん  
2003年よりNPO法人冒険遊び場の会代表。大学卒業後、公立の保育士や児童館職員として11年勤務。出産を機に国分寺市に転居し、初めての地で子育てをするなかで自主保育グループを立ち上げ仲間をつくる。市内の公園が環境を十分に活かしていないことに気づき、仲間と「遊び場を考える会」をつくると、子どもを連れてから市内の公園探検を始めることになりました。探検したことが「冒険遊び場の会」の原点。

基本町公園、窪東公園、北町公園では、子どもたちのワークショップなどで国分寺市の公園づくりに協力。国分寺市プレイステーションでも、市民や子どもたちの声を反映するために市担当者と協力して、これまでにワークショップを複数行う。

進行 足立隆子 NPO法人たかの台自由遊びの会 理事長  
鷹の台ひとえん会 会長

プログラム  
10:00～ごあいさつ 11:05～武藤さんと足立の対談  
10:10～武藤さんのお話 11:40～質問タイム  
10:55～休憩 11:55～閉会

鷹の台整備周辺の魅力を高めることを目的に、わたしたち「鷹の台ひとえん会」は2019年5月より活動を始めました。メンバーは、鷹の台周辺の地域を活動されている方々を中心とする小平市民35名です。  
<http://plant2.qcweb.jp/hitoenkai/>

お問い合わせ 鷹の台ひとえん会事務局  
小平市たかの台 4-110 鷹の台整備推進事務局内 TEL: 042-386-4667

今、鷹の台公園と鎌倉公園という、かなり大きい公園の整備計画があり、今まで実現しなかった常設プレーパークが二つの公園で実現することができそうな好機を迎えている。拠点のプレーパークができれば、国分寺市のように市内の公園数か所出張プレーパークができる。そのためには小平市がプレーパークを事業化し、人件費などの予算を付けてくれるように働きかける必要がある。市長が変わった今、可能性が見えてきた。

残念ながら今年度は新型コロナの影響で、これまでやってきた「ふくしまキッズプロジェクト」、「青空まつり」「十二小まつり」「NPO フェスタ」「環境フェスティバル」などの会が中止になり参加できなかった。

2月7日

ひとえん会主催で、神林俊一さんにインクルーシブ公園についてお話を聞いた。神林さんはインクルーシブ公園（障がいのある子どもない子どもと一緒に遊べる公園）を日本に広める役をやっているが、成功させるためには地域の人の理解が欠かせない。デザインの段階から地域の人が加わって作っていくことが大事ということで、これからできる鷹の台公園をどのようにとらえるかという提案をさせてもらった。

まちづくり講演会  
鷹の台公園から発信する  
小平市の未来像  
～ひとえん会のSCスペシャリスト相馬一郎氏と  
インクルーシブ公園の伝道師 神林俊一氏に聞く～

鷹の台の創備グラウンド緑地が公園になります。  
どんな公園だったら子育てがしやすいか、街が活気づか、一緒に考えてみませんか？

主催：鷹の台ひとえん会  
<http://plant2.qcweb.jp/hitoenkai/>

日時: 2021年2月20日(土)  
13時15分～16時

場所: 小川公民館ホール

内容: 相馬一郎氏講演  
神林俊一氏講演  
神林俊一氏と細江卓朗氏対談

入場無料 どなたでもお気軽にお越しください  
感染症予防のため、会場定員数が制限されており、WEB配信も予定しております(後日詳細ご連絡します)  
事前に参加人数把握したいため、小川公民館に事前参加されたい方はご連絡をお願いします  
来場される方はマスクの着用をお願いします  
体調不良の場合は参加を控えて頂きますようお願いいたします

[来場参加申込みアドレス] [setsosono87hans@yahoo.co.jp](mailto:setsosono87hans@yahoo.co.jp)  
当日定員に達した場合は会場に入れられない場合がありますので参加予約をお願いいたします

★ひとえん会の運営のお手伝いして下さる方募集しております★  
事務所人員が不足しており皆様のご協力が必要です  
★臨時会員募集もしております 地域のお知り合いの方ご紹介下さい★

## 公園アダプト

公園アダプト制度とは登録団体が市に代わって、公園の一部または全部区域で清掃、植栽や池の手入れなどの管理を自主的に行う制度で、令和元年11月時点で10団体が登録しています。自由遊びの会でもプレーパーク事業と平行して小平市の公園アダプト制度に加盟して中央公園東側の雑木林の清掃活動を行っています。今年も遊び場運営の傍ら清掃活動を子どもたちと一緒に行いました。



編 集：NPO 法人こだいら自由遊びの会

発 行：NPO 法人こだいら自由遊びの会

住 所：東京都小平市小川町一丁目4 4 5 番地の 1

発行日：2021 年 5 月 6 日

印刷所：まちづくり市民こだいら事務所